

令和7年度とうきょうすくわくプログラム 活動報告書

宗教法人月見岡八幡神社 八幡神社愛育園

テーマ：園庭の自然～見つけたものを撮ってみよう、のぞいてみよう～

テーマの設定理由とねらい

環境と背景

園庭には四季を通して多様な草花や虫が見られる。子どもたちは「これなあに？」「触ってみたい」と日頃から興味関心を持っている。

ねらい

- ・ 見つけたものを記録して調べる経験をする
- ・ 子ども自身がiPadを使って撮影することで、室内に持っていき事のできない樹木や草花をじっくり観察する
- ・ 気付いたことを言葉に表現して友だちと共有する
- ・ 図鑑を使って自分で調べ、知ることの喜びや面白さを味わう
- ・ 顕微鏡を使い、見慣れた草花が拡大すると違う姿になる不思議さに出会う

準備した素材や道具、環境の設定

- ・ iPad、植物図鑑、昆虫図鑑、ハンディ顕微鏡、スマートフォン
- ・ 園庭で草花や虫が見つかりやすいような場所を事前に確認しておく
- ・ 室内に複数人で座れるテーブルと図鑑を用意しておく
- ・ 気付いたことを言葉にしやすい雰囲気づくりをする

スケジュールと活動内容・子どもの様子

年長児

- ・ 10月23日 「この草花の名前を知っているかな？」
 - ①園庭で見つけた草花を各自iPadで撮影した。
 - ・ 「何から撮ろう」と迷う様子も見られたが、次第に花や葉を次々に撮影し始めた。
 - ・ 撮影した写真を子ども同士で見せ合い、「これいいね」と話したり、「どこにあったの？」と聞き合ったりする姿が見られた。
 - ・ 「名前が分からない」と会話する様子に、保育者が「どうしようか？」と尋ねると、「図鑑で調べる」との応答があった。

②室内に入り、二グループに分かれてどちらがたくさん図鑑で名前を見つけられるか競争することになった。

・子どもたちは、「これと同じ花ってこれかな?」、「葉っぱのかたちがちょっと違うから、これは違う」などと話し合いながら、自分たちの撮影した写真と図鑑とをじっくり見比べていた。

・ 11月11日 「あけびが実った!木や葉っぱはどうなっている?」

①園庭のあけびの木に実がなっていたので、大きくなっている様子を年長児全員で見たあと、収穫した。

・あけびの実を見て、「おもしろい形!」「初めて見た」と言う子や、「これ食べられるの?」「歯の形みたいでおいしくなさそう」との感想を言う子がいた。

②「あけびの木ってどれかな?」と保育者が問いかけ、あけびの木、葉っぱを各自写真に撮影した。

・「面白い形」「葉っぱはどうなっているかな?」などと話し合う様子が見られた。

③「他の木と違うところはあるかな?」「2種類のあけびの葉っぱの違いは何かな?」等声をかけ、図鑑を参照しながら考えを話し合った。

・「他の木と違って、細い木だね」「葉っぱは3枚と5枚に分かれているのがある」など、発見したことを言葉にして共有していた。

④あけびの実を切り分け、食べてみる。

・「甘くておいしい」と言いながら、初めの印象との違いに驚く様子が見られた。

・ 11月17日 「見えなかった世界をのぞいてみよう」

①「木の皮、葉っぱを見てみよう」と呼びかけ、園児二人が1組になってハンディ顕微鏡を使い、園庭で観察をした。

・ピントを合わせるのが難しく、よく見るができなかった。

②好きな葉を採集し、室内で机の上に置き、ハンディ顕微鏡で観察した。

・「すごくきれい」「こんな色が隠れてたんだ」「黒い模様なんて見えないのに、不思議」と、見えたものを進んで言葉にする様子が見られた。子ども同士、交代しながら「次これ見て」「ぼくのは毛が見えるよ」と会話が生まれていた。「このきれいな色を絵にしてみたい」と言う子もいた。

・ 3月13日 「春をさがそう」

①園庭のくわの木の芽が出ていることに気がついた子どもたちが、毎日少しずつ大きくなっていくことに関心を持って見ていた。

②「ほかに木や花など芽が出てきたり、冬のころと変わってきたりするものはないかな？」と問いかけ、子どもが持ちやすいスマートフォンとハンディ顕微鏡を使い、園庭に出て木の芽等を見てみたり、写真を撮ったりした。

・芽がでている木をさがす子どもたちと、花やつぼみに興味を持ちハンディ顕微鏡を使って写真を撮るグループがあった。

・「園庭の木の中で、葉っぱが無い木はどれだろう？」と尋ねると、あけびの木が挙がったが、子どもたちが実際に観察してみると芽と花が発見でき、驚いた様子が見られた。

③室内に入り、それぞれ撮影した写真を回覧しながら、図鑑で名前を調べた。

・ハンディ顕微鏡で撮影した細かい部分を見ながら、「どうなっているんだろう？」と興味深そうに観察を楽しんでいた。

年少・年中児

・ 10月23日 「園庭のふしぎをさがそう」

①園庭で子どもたちが自由に草花、葉っぱ、虫を探し、見つけたものを撮影した。

・しゃがみこんでじっくりと観察する様子が見られた。

・「このお花きれいだよ」と友だちに教えたり、見つけたものがあつた場所を友だちに教えていた

・撮影が難しい様子の子には、保育者が手を添えて一緒に挑戦した。

②室内に入り、自分の撮つた写真と図鑑を見比べ、名前を調べた。保育者は、名前の読み方や植物等の特徴のヒントを伝えるようにした。図鑑で特定したものは全員が見られるようにして共有した。

・「僕が撮つたよ」「わたしの撮つた写真はこれ！」と、誇らしそうに話す様子があつた。

・図鑑とiPadの写真を見比べながら、「この葉っぱかな？似てるね」と話したり、「こう書いてあるよ」と言いながら、名前がわかると繰り返し友だちに伝えていた。

・ 11月17日 「草花や葉っぱをのぞいてみよう」

①「園庭できれいな葉っぱや草花を見つけてこよう」と呼びかけ、園庭に落ちている草花や木の実を自由に集めた。見つけたものを子どもたちが見せ合い、きれい・変わっているなど感じたことを共有した

- ・年少児は「どれが気になる？」等、話しかけながら保育者も一緒に探した。
- ・年中児は一人ひとり分かれて探索していた。

②「もっと大きく、きれいに見える方法があるよ」と伝え、室内のテーブル上で顕微鏡を使って観察し、葉脈や葉や茎の毛、色の違いを発見した。

・「どんな模様が見えた？」と問いかけると、「こんなの見たよ」「見せて、見せて」と言いながら子ども同士で見せ合ったり、観察対象を交換していた。葉脈を見て「線がよく見える」と言ったり、葉の中に黒い斑点を発見して「黒い点がある。なんだろう？」と言ったりしていた。

・「この葉っぱはつるつるだけど、これはざざざざ」、「この葉っぱの周りには毛みいたいのが見える」と、細かな違いに気づき、言葉にしていた。



活動を振り返って

- ・ 子ども自身が写真撮影をしてみることで、普段は見逃していた小さな草花への関心が深まり、これまで気が付かなかった色や形の違いをじっくり見る姿や、気がついたことを言葉にして友達と共有する様子が見られた。年少児は花や虫などを見つけること、撮影することそのものを楽しんでいた。年中児では調べること、名前を知ることにより意欲的で、友だちと協力して図鑑を調べていた。年長児では調べた名前を書いて覚え、その後園庭で遊んでいる際に「これは○○だね」と友だちと確かめ合う姿が見られた。
- ・ 顕微鏡で拡大してみる経験を通して、子どもが観察する新たな視点が生まれた。初めての道具でもすぐに興味を持ち取り組む姿が見られ、丁寧に扱う経験が育っていた。年少児は大きく見ることが面白いと感じているようで、年中児では比べたり、違いに気づいたりする探求に興味を持っている様子だった。見えたものを言葉にして友だちに伝えあうやりとりが自然と生まれていた。年長児では絵に描いてみたいと言っている子どもがいたので、そのような機会も設けたいと思った。
- ・ iPad とハンディ顕微鏡を一緒に使うより、スマートフォンと一緒に使うほうが子どもにとって使いやすかった。
- ・ 3月に木の芽を観察した年長児では、「あしたはどうなっているかな？」と変化を期待しながら園庭の様々な木々や花などへの関心が広がっている姿が見られた。子どもの小さな発見に共感し、探求につなげていきたいと思う。